

～将来、プロダクトデザイン・インテリアデザイン・建築設計の分野で活躍したいと思っている学生の皆様へ～

2020年1月31日のCIPデザインセミナー「デザイナーとAIの協奏曲」の講師を務めさせていただきます、新堂です。

僕がコンピューショナルデザインと出会ったのは、2010年、隈研吾研究室主催のデジタルティーハウスワークショップでした。コロンビア大学との共同ワークショップで実寸大の茶室をデジタルファブリケーション技術を用いて作り上げました。海外では20年前から当たり前となっていた技術ですが、日本に入りたての頃に出会えたのは幸運でした。それから10年経ち、ようやくライノセラズやグラスホッパーといったパラメトリックデザインのソフトが実務でも限定的に使われるようになってきました。レビットやアーキキャドのようなBIMも大手組織設計事務所では当たり前に使われるようになりました。

1920年代に工業生産による「材料革命」によってモダニズム建築が生まれて以来、現代の空間デザインの基本はモダニズムの効率性から脱却できずにいましたが、コンピューターシミュレーション上では30年前から新たなデザインの芽が生まれ、3Dプリンタやロボットアームの導入によって現実世界へのアウトプットにおいてもここ10年の間に飛躍的な進化が起きています。「情報革命」によって、モダニズムを超えるデザインがようやく生まれようとしているのです。

コンピューショナルデザイン技術にAIによる深層学習が加わることで、デザインを進めるにあたってとても大切なトライアンドエラーの回数が数十回から数万回に跳ね上がります。一つのことをデザインする時代は終わりを告げ、デザインするツールやフレームワークをデザインする時代になりつつあります。

とんでもない時代に生まれたと危機感を持っていただき、将来を生き抜くそれぞれの武器を手に入れるきっかけとなれば幸いです。

株式会社 SENSUOUS
代表取締役 新堂 博之